



# 6月園だより

ホームページ <https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/minamisenju2/index.html>



## 家読で親子の脳と絆を育くむ

園長 立石 晃子

園庭の片隅で、年長児がバケツを片手に草むらのをのぞき込んでいました。「何を探しているの?」と聞くと、「カタツムリ!」とバケツの中のカタツムリを見せてくれました。雨天の日も多くなり、いよいよ梅雨の時期を迎えます。

5月18日(水) 親子遠足で荒川自然公園に出掛けました。少し園から離れた場所に出掛けた遠足となりました。各学年、ゲームや散策をして学級の親睦を深めたり、遊具やアスレチックで遊んだりしました。草花、虫、鯉や白鳥などお子様の発見に触れ「こんなことに気付くようになったんだ」と驚いたり、アスレチックに果敢に挑戦するお子様の様子を見て「こんなことができるようになったんだ」と成長を感じたりされたのではないのでしょうか。

年長組はゆいの森あらかわにも出掛けました。約60万冊の蔵書規模を誇る区の「中央図書館」がある施設で、親子で絵本を読んだり、司書の方による読み聞かせを聞いたり、家読についても伺ったりしました。



荒川区では、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言に基づき、子供たちの豊かな心を育むため、子供たちが本と出会い、読書の大切さや楽しさを実感できるよ

う読書活動を推進しています。令和3年4月に策定した「荒川区子ども読書活動推進計画(第四次)」では「家読(うちどく)」の推進を重点事業として取り組んでいくこととしています。

「家読」とは、「家族ふれあい読書」の意味で、読書を通じて、コミュニケーションを図り、家族の絆をつくる取組です。絵本の読み聞かせの効果について、元東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 泰羅 雅登 教授は、「うれしい、楽しい、こわい、悲しいをちゃんと感じる『心の脳』が働くだけでなく、お母さん・お父さんの脳も活動します。親子の絆づくりにもお勧めです。」と東京都生涯学習情報に寄せています。読み聞かせは、直接子供の「心の脳」に働きかけます。「心の脳」がしっかりしていないと、その上の知を育む脳も、その子の行動もしっかり育たないとのことです。また、読み手側は、通常の読書よりも読み聞かせ時の脳はもっと活動しており、脳の健康にもいいとのことです。お子様の気付きをほめることができ、親子の絆が深まります。ぜひ、ご家族で「家読」を楽しみ親子の脳と絆を育ててください。

## 楽しいこといっぱい！子どもたちの園生活

### < 3 歳もも組 >

今日のお弁当なんだろうな、今日は何をするのかな？

5月の始めにおやつがあり、御家庭でお馴染みのおせんべいを食べました。「みんなで食べる」という経験の良さなのか、目を輝かせて1枚のおせんべいを大切にゆっくりと味わって食べていました。お弁当になってからは、食べる前に「今日のおにぎりの中身はシャケだよ」「私のはツナが入っているよ」とみんなで微笑み合いながら話をします。食べる時は黙食ですが、「みんなで食べる」ということを楽しんでいきます。お弁当の分、保育時間は長くなりましたが、ゆっくり遊びを楽しめるようになったり、土曜参観では、「おつかいありさん」の歌を歌ったりすることもできるようになり、成長を感じています。先日は、グリーンクラブの方との種団子作り、荒川自然公園への親子遠足と保護者の方々の協力のおかげで楽しい行事も体験できました。6月にはプール遊びが始まります。「水遊びって楽しいな」という気持ちになれるように援助していきます。

### < 4 歳たんぼぼ組 >

楽しみいっぱい！どんな花が咲くかな？

園のプランターにイチゴが実り「赤くなったら、順番に食べようね」と、ウキウキワクワクしながら、赤くなるのを待ちました。休み明けのある日、「先生！赤くなった！」と大喜びの子供たち。順番に食べていくと、「甘い！」「おいしい！」「私の酸っぱかった！」と嬉しそうに食べていました。その後、「ミニトマト」「ポップコーン」の苗を植えました。「早く食べたいね。」「まだかな」と楽しみにしながら水やりをしています。また、花の種も撒きました。石みたいだから「いしちゃん」。白いハートが真ん中にあるから「ハートちゃん」。たまねぎ、にんにくみたいな形なので「ちっちゃたまねぎ、にんにくちゃん」と、種の特徴から名前がつけました。どのような花が咲くのか楽しみが増えました。6月はプール遊びもあり、友達と一緒にルールを守りながら水に触れて思い切り体を動かして遊びを楽しめるように過ごしていきます。

### < 5 歳ばら組 >

生き物や植物の変化に興味津々！驚きや発見がいっぱいの毎日です。

5月はたくさんの生き物と出会ってきました。遠足で見つけたてんとう虫の卵を飼い、幼虫が生まれ、てんとう虫へと変わる変化。えさのアブラムシを探しに行った汐入公園で、オタマジャクシを見つけきて、カエルになるまでの変化。体の様子が日に日に変わっていく様子に、毎日飼育ケースを覗き込み、気付いたことを友達と話しながら、一緒に絵本で調べてみたり、えさになるものを探しに行ったりしていました。そして、今は日に日に大きくなっていく、クロアゲハの幼虫を毎日見ながら、これからの変容を楽しみにしています。ケースの中に落ちていくフンが、粉のようなものから、だんだんと大きく変わっていることを発見し、「すごい！うんちがこんなに大きくなっている！」と大興奮の子供たちでした。

6月は、季節の変化に伴い、雨や光の不思議にもみんなで目を向けながら、様々な発見を楽しむ毎日を過ごしていきます。